

マダニ曝露後に予防抗菌薬は必要か？

静岡県立静岡がんセンター 感染症内科 倉井華子

2021年8月時点で、静岡県では2例の重症熱性血小板減少症候群(Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome : SFTS)症例が報告されています¹⁾。今まで静岡ではSFTSの報告がありませんでしたが、今年になり全国でも多くの地域でSFTSが報告されています。今までは西日本に多い疾患とされてきましたが、東日本でも報告がでており、今年6月には千葉県の不明熱患者のプール血清から診断されたSFTS症例が報告されました²⁾。

マダニによる感染症としては、日本紅斑熱やライム病もあります。これらは抗菌薬で治療が可能な疾患であり、マダニ曝露後の予防的抗菌薬の必要性について、質問を頂きますのでまとめてみました。

ライム病は米国のガイドラインが出ており³⁾、予防投与が必要な適応として

- ・ 摘出から72時間以内に内服すること
- ・ ライム病を保有しうるマダニの種類であること
- ・ 流行地域(endemic area) であること
- ・ マダニにかまれて36時間以上経過していること

と記載されています。

この中のライム病を保有するマダニの種類がわかるかどうかですが、ぜひマダニをじっくりと見てください。それぞれ大きさや模様などからよく見ると鑑別ができます。ライム病を媒介しうるマダニはシュルツェマダニとされます。シュルツマダニは北に多く、本州では標高1200mをこす地域に生息するとされます⁴⁾。静岡県での調査でも海拔1000m以上の井川と富士山周辺で見つかっています⁵⁾。私も不定期でダニ採取を行いますが見つけられたのは富士山の5合目での経験です。



図1 シュルツェマダニの成虫



図2 著者の腕にのるタカサゴキララマダニの成虫

参考：<https://www.niid.go.jp/niid/ja/from-lab/478-ent/3683-persulcatus.html>

<https://www.niph.go.jp/h-crisis/bt/other/37detail/>

次に流行地域(endemic area)についてですが、おおむね 20%を超えると予防が推奨されるようです。富士山でとれたシュルツマダニのボレリア保有率が 23.6%という報告もあり、富士山でシュルツマダニに咬まれたのであれば予防投与を行ってもいいかもしれません。

さて日本紅斑熱はどうでしょうか？こちらについては予防投与について検討した論文が出ていません。ただ、リスクが低いことから CDC は曝露後の予防投与は推奨していません⁷⁾。国内で見ても日本紅斑熱の報告が多い三重県においても保有率は 3.1%未満です⁸⁾。静岡でも県内のマダニのリケッチア保有率は 1%未満です。この点から日本紅斑熱に対する予防についても基本は不要という判断でよいと思います。

いかがでしたか？今回は少しマニアックな内容でしたが、ダニをつけてきた患者さんが来院されたらダニをじっくり見てみてください。それぞれに個性があり保有する病原体も異なります。困ったらぜひ hanamushi@nifty.com までご一報ください。

(追記:2021 年 7 月 9 日県内で本年 3 例目の日本紅斑熱に罹患した 80 代の方が死亡されました。8 月 10 日、30 代女性の日本紅斑熱、本年 4 例目の報告がありました。)

- 1) マダニ等が媒介する感染症「重症熱性血小板減少症候群」に注意しましょう！～県内で初めて「重症熱性血小板減少症候群」の患者が発生しました～ <http://www.pref.shizuoka.jp/kousei/ko-510/seiei/documents/presssfts.pdf>
- 2) 関東地方で初めて感染が確認された重症熱性血小板減少症候群の 1 例. IASR. 2021/6/22 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/sfts/sfts-iasrs/10449-497p02.html>
- 3) Clinical Practice Guidelines by the Infectious Diseases Society of America (IDSA), American Academy of Neurology (AAN), and American College of Rheumatology (ACR): 2020 Guidelines for the Prevention, Diagnosis and Treatment of Lyme Disease.
- 4) 国立感染症研究所 ライム病 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/524-lyme.html>
- 5) 静岡県のマダニ類 のライム病病原体保有状況 栗田亨 感染症学雑誌 1995 年
- 6) Clover JR, Lane RS. Evidence implicating nymphal Ixodes pacificus (Acari: ixodidae) in the epidemiology of Lyme disease in California. Am J Trop Med Hyg. 1995;53(3):237-40
- 7) <https://www.cdc.gov/ticks/tickbornediseases/tick-bite-prophylaxis.html>
- 8) Rickettsiae in ticks, Japan, 2007-2011. Emerg Infect Dis. 2013 Feb;19(2):338-40.